

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	自らが考え自己表現ができる 当たり前のことを当たり前にできる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携担当者の教育内容部会の継続開催。</li> <li>・連携コーディネーターによる小学校訪問・参観・授業の実施。</li> <li>・学校事務の共同実施。</li> <li>・小中連携担当者会から、専門的な支援教育部会の設置。</li> <li>・小から中へ継続した道徳授業の実施。・部活動での連携</li> <li>・中学校ブロック合同授業研を1回開催。</li> <li>・各学校で実施する校内授業研、参観等にお互いに参加し、交流する。</li> </ul>
確かな学力の育成	自ら課題を解決する力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> <li>・新学習指導要領に沿った授業改善を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に準拠した評価の確立。</li> <li>・自分の考えを発表する授業を全教科で年間通して計画的に実施する。</li> <li>・授業デザインの確立。</li> <li>・授業規律の確立。</li> <li>・新学習指導要領に沿った授業改善を進める。</li> </ul>
豊かな人間性を育む	命を大切に 方を認める 命を大切に し多様な生き	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする学習、「赤ちゃん先生」などを実施していく。</li> <li>・一人一人の多様な違いを認め合う集団作りを進める。</li> <li>・人権に関する知識理解を深める学習を実践する。</li> </ul>
健康・体力の増進	運動が好きという生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング(準備運動やランニング、筋力トレーニング)を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング(準備運動やランニング、筋力トレーニング)を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの単元に対応したトレーニング(準備運動やランニング、筋力トレーニング)を検証していく。</li> <li>・体力向上の大切さや食育を生徒に説明する機会を設け、全校体制で生徒が自主的に体力向上を意識して、行動するように引き続き働きかけを行う。</li> </ul>
支 援 教 育 の 充 実				

# 2

## 今年度の結果と取組みについて

### (1) 全国学力・学習状況調査

### 〇●国語●〇

<p><b>国語A</b> (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③記述式 該当問題なし</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他) 書く能力、読む能力については概ね良好である。 一方、言語の知識・理解・技能、については全国平均を下回っていて、特に古典の知識については無解答率が高く、正答率低下につながった。</p>	<p><b>国語B</b> (領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果であった</p> <p>④言語事項 やや課題が残る結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 該当問題なし</p> <p>③記述式 概ね良好な結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他) ・「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」問題について、全国平均を上回っているが、「場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する」問題は、全国平均を大きく下回っている。</p>
---	--

#### 分析

全体の正答率は、概ね良好である。  
 領域別について、「書くこと」「言語事項」において、正答率が低い。  
 問題形式について、「選択式」「短答式」「記述式」全てにおいて、全国平均よりも若干低い。  
 「書くこと」に関しては初見の問題を解く練習が不足していたと考えられる。  
 「言語事項」に関しても、知識の定着が不足していたと考えられる。

<p>数学A (領域ごと)</p> <p>①数と式 概ね良好な結果であった</p> <p>②図形 概ね良好な結果であった</p> <p>③関数 概ね良好な結果であった</p> <p>④資料の活用 やや課題が残る結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③記述式 該当問題なし</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数と式において、基本的な計算の正答率が全国平均より低かった。</li> <li>・図形においては、半分以上の問題で正答率が全国平均より高かった</li> <li>・関数の問の中には正答率が全国平均よりかなり高いものがあった。</li> <li>・資料の活用は全体的に正答率が低かった。</li> <li>・すべての問題について無解答率が全国平均より高かった。</li> </ul>	<p>数学B (領域ごと)</p> <p>①数と式 概ね良好な結果であった</p> <p>②図形 概ね良好な結果であった</p> <p>③関数 概ね良好な結果であった</p> <p>④資料の活用 概ね良好な結果であった</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった</p> <p>②短答式 概ね良好な結果であった</p> <p>③記述式 概ね良好な結果であった</p> <p>(無解答率) 概ね良好な結果であった</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の活用は全国平均より低かった。</li> <li>・図形においては半分以上の問題で正答率が全国平均より高かった</li> <li>・一部記述式の問題では無解答率が全国平均を下回っている</li> <li>・短答式の問題の正答率は全国平均とほぼ同じであった。</li> </ul>
--	--

<p>分析</p> <p>A 問題について、「数と式」の領域では多くの問題で全国平均を下回る正答率であった。最初の『正の数負の数』の計算や式で表すことに関して、全国より大幅に正答率を下回るものもあった。直感的に答えてしまう傾向が感じられる。「資料の活用」の領域でも、全体的に全国平均を下回っている。学年末考査後に授業をおこなったため、少し練習不足であったかと考えられる。逆に「図形」「関数」の領域では全国平均を上回る正答率であった。『角度』『合同』『四角形の性質』などで力を発揮していた。1 番の課題は、無解答率がすべての問題において全国平均を上回っていることである。</p> <p>B 問題についても同様に、「図形」領域に関しては、正答率が全国を上回っている問題が多かった。A 問題同様に無解答率は高かったが、「数と式」と「関数」の記述式の問題（物事を数学的に解釈し説明する）に関してのみ無解答率が全国を下回った。きまりを考え説明しようと努力する姿が見られるが、正解に至らなかったという状況が考えられる。</p>
---

理科

(領域ごと)

- ①物理的領域  
概ね良好な結果であった
- ②化学的領域  
概ね良好な結果であった
- ③生物的領域  
概ね良好な結果であった
- ④地学的領域  
概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式  
概ね良好な結果であった
- ②短答式  
概ね良好な結果であった
- ③記述式  
概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・理科全体では、平均正答率が全国平均をわずかに下回っているが、化学的領域は全国平均を上回っていた。
- ・選択式・短答式の平均正答率はともに全国平均をわずかに上回っていたが、記述式は少し下回っていた。
- ・主として「知識」に関する問題は全国平均を上回っていたが、「活用」に関する問題はわずかに下回っていた。

分析

- ・化学的領域の正答率が全国平均を大きく上回っていたのは、「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる」で、全国平均よりも大幅に高かった。1年生のときより、計算に関する指導を丁寧に行ってきた成果かと思われる。
- ・記述式について正答率が全国平均を少し下回っていたのは、6問すべて無解答率が全国平均を上回っていたためと考えられる。特に条件制御をおこなった実験から、結果に影響を与えている原因を考察することに課題が見られた。実験と結果を知識として頭に入れて終わるのではなく、考察を書く過程（個人で書く、グループで実験の条件や結果に照らし合わせて適切であるかどうか検討する等）を大切にしていけることが必要であるように思われる。
- ・観点別に見ると、「自然事象への関心・意欲・態度」「観察・実験の技能」に関する問題の正答率は全国平均を上回っているが、「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」に関する問題の正答率は全国平均よりわずかに下回っている。知識の定着を図ることと、実験による考察の記述や、実験データをグラフ化してそれを分析するような機会をさらに増やしていく必要がある。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

この 10 年間、年度によって正答率は上昇下降が繰り返されているが、例年、数学Bは高水準である。

### 学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

学力高位層・低位層ともに年度によって上昇下降を繰り返している。傾向としては、学力高位層が全国に比して多く、低位層は少ない。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

#### <国語科>

- ◎国語に関する基礎的な力に、やや課題が残った。故事成語、慣用句等の語句知識の学習は継続して、適宜課題として与え、定着を図っていく。
- ◎「書く能力」向上のため、授業形態を工夫し、授業での発問の答えを文章で書くようにしていきたい。また、授業の中で、作文や資料読み取りの指導を進めるとともに、一歩進んで、他の生徒の前で自分の考えを発表させるような形式の授業にも積極的に取り組んでいきたい。コミュニケーション能力が問われている昨今、話し合いや討論の基礎的な手立てなども丁寧に指導していく必要がある。

#### <数学科>

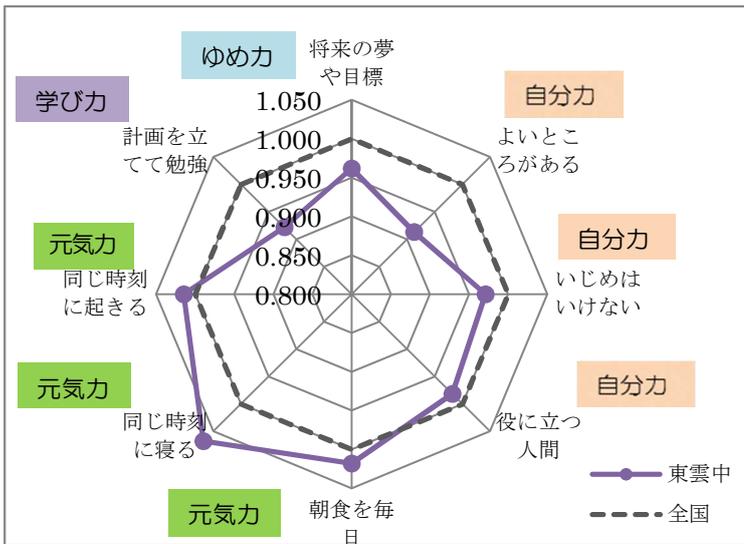
- ◎授業形態を問わず、身に付けた知識を根拠や意味の理解にまで掘り下げていき、横断的に活用していくことができる知識として発展・定着させていきたい。そのために、こまめに練習プリントをおこない生徒たちの理解を確認する必要がある。
- ◎知識を伝達するだけの講義型授業ばかりに偏るのではなく、自ら考え課題を解決していく問題解決型の授業も盛り込んでいく。また、苦手な生徒にも「一緒に頑張ろう」と声をかけあい、教えあえるような環境をつくっていく。
- ◎どの領域でも数学的な操作や活動を多く取り入れていくための準備（教材研究）を進めるとともに教科内での交流も積極的に行っていく。合わせて、ICT機器の活用や見たり触ったりできる教材により想像力を刺激していくこと、班学習を充実させ生徒間でのコミュニケーションを通しての学習活動の練り上げ、この2点から生徒たちの活動、学びにつなげる。
- ◎また、今年の無解答率の高さは、「別にいいやん」という学年の体質に起因するところが大きいと思われる。数学の授業だけでなく、行事や日々の活動のひとつひとつから丁寧に話をしていきたい。成功体験を増やし自信をもって解答することが出来るようにしていきたい。

#### <理科>

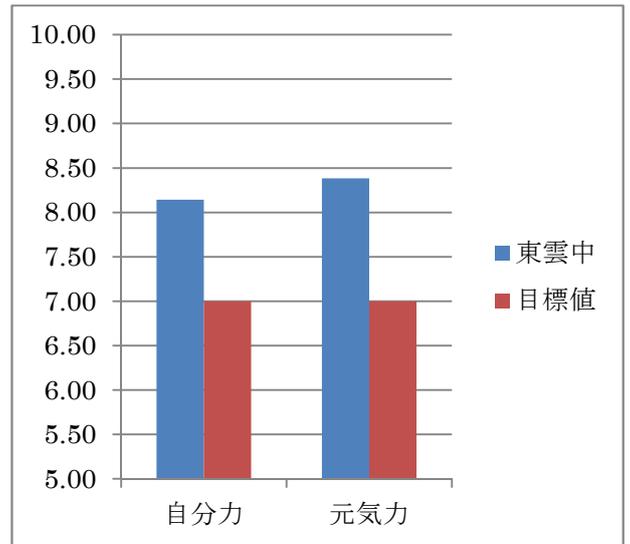
- ◎観察・実験を丁寧にいき、観察・実験の技能の定着を図る。
- ◎考える・書く・話し合う場面を意識して授業を行う。予想や仮説を立てる場面では、習得した知識・技能や日常生活の経験から、自分の考えをもてるようにする。また、自分の考えを、対話を通して生徒自身が検討して改善できるようにする。考察の場面では、実験の条件や結果に照らし合わせて適切であるかどうか検討する場面を設ける。
- ◎理科で学習したことが日常生活や社会と深くかかわりをもっていることや、さまざまな原理や法則が科学技術を支えていることに気づくはたらきかけをし、理科を学ぶことの意義や有用性を実感させたい。

# ○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

## 分析

「自分力」「元気力」ともに、目標値は上回っている。

- ◎【ゆめ力】『将来の夢や目標を持っていますか』という問いに対して、「その通り」「どちらかと言えば…」と回答した生徒は、全国平均と同じ72.5%であった。ただ、「その通り」と、より積極的な回答をした生徒は、全国平均よりも7%少ない。
- ◎【自分力】『いじめはいけない』『人の役に立つ人間になりたい』という設問では、「その通りだと思う」「どちらかと言えばそう思う」を9割以上の生徒が選択し、肯定的回答は全国平均とほぼ同等である。ただ、「その通りだと思う」という、より積極的な回答を選択した生徒については、『いじめはいけない…全国平均(80.5%)・本校(76%)』、『人の役に立つ人間になりたい…全国平均(70.7%)・本校(66.3%)』と、どちらも全国平均よりもやや低い。このことは、『自分にはよいところがあると思うか』という設問に対する肯定的な回答が全国平均を下回っていることと併せて考えると、自分自身に対する自信を持っている生徒が少ないことに起因するのかもしれない。
- ◎【元気力】『朝食を毎日食べていますか』『毎日、同じくらいの時刻に起きて／寝ていますか』という設問においては、全国平均を上回っている。このことから、多くの生徒たちが、家庭生活における「基本的な生活習慣」を身に付けているということがうかがえる。
- ◎【学び力】『家で自分で計画を立てて勉強していますか』という設問については、全国平均を大きく下回る結果となっている。ただし、「している」層(全国平均16.7%・本校15.8%)に限れば、わずか0.9%の差にとどまっている。対して、「全くしていない」と答えた層(全国平均12.9%・本校21.4%)が8.5%も全国平均を上回っている。家庭学習の習慣が全くない生徒に対する手立てが必要である。また、近年、放課後は塾で学習しているが、家庭で自学自習する習慣がない(時間がとれない?)生徒もいる。いずれにせよ、「自身で計画を立てて学習する」姿勢を培ってゆく必要がある。

## 取組み

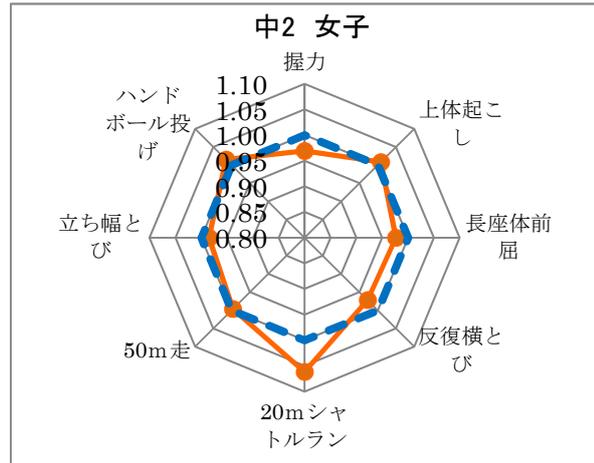
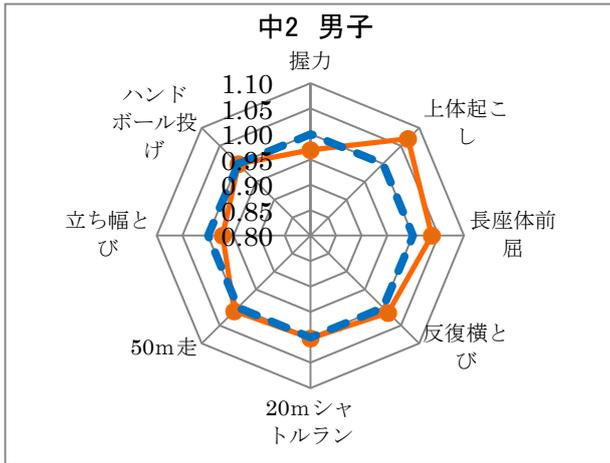
- 各教科の授業で学習したことが将来、社会に出たときに役に立つという意識づけを行い、学習意欲の向上へつなげていく。
- 授業で学習したことを復習する習慣をつけさせる。基礎学力の定着のため、まずは、家でふりかえりをするための教材、まとめをするための教材等を宿題として課すことで、家庭学習の時間を増やしていく。
- 全教職員が「茨木っ子版 授業スタンダード」・「大阪の授業STANDARD」の内容を再確認し、それをベースにした「生徒が自ら考え、教え合い、学び合う」授業デザインの構築をすすめていく。
- 「総合的な学習の時間」のみならず、各教科の授業で生徒の間で話し合う活動、発表する活動などをふやしていく。
- 身の回りで起こっている出来事や地域の行事等に関心をもたせるため、小学校と連携した取組みを通じて、地域行事への参加を生徒に促していく。

## (2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

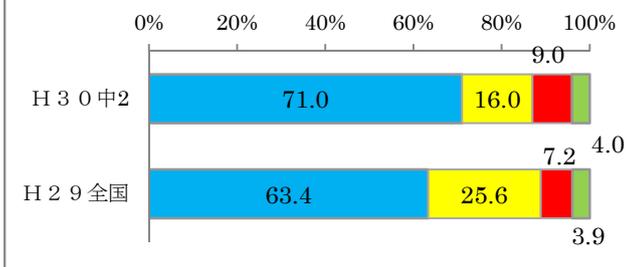
男子 (中2)

○●体力●○

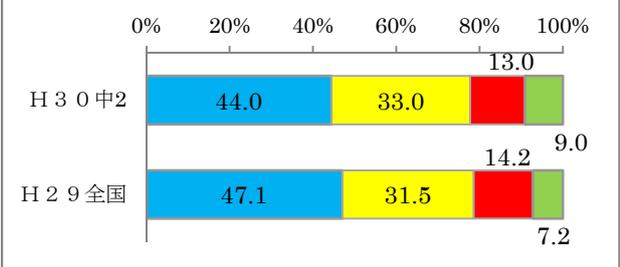
女子 (中2)



### 運動・スポーツが好きですか(中2男子)



### 運動・スポーツが好きですか(中2女子)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

### 分析

体育系の部活動に参加している生徒が多いこともあり、授業では生徒が積極的に体力向上に取り組む姿勢がみられた。全国平均値から分析すると、今年度の2年生女子は20mシャトルランが全国平均よりも高い数値を示しており、それ以外は平均に対して同等、もしくは数値が下回っている結果となった。男子は上体起こし、長座体前屈を除き、全国平均と同等の数値となった。授業を行う際も体育系の部活に参加している生徒とそうでない生徒との間に運動に対する意識や運動能力の格差が広がっているように感じている。今後、数値を上げていく取組みとして、筋力トレーニングや馬跳びなどのジャンプ運動を丁寧に行わせ、より多くの生徒が運動時間を確保できるような授業展開・授業での工夫が必要となってくると考える。

### 取組み

現在は、体育の授業において、ランニングや筋力トレーニングを毎回取り入れているが、体力・筋力に個人差がある。個々の能力に応じて、一つ一つの筋力トレーニングを丁寧に行うことや回数を改善し、運動部に所属している生徒と所属していない生徒の差を埋めていきたい。特に、学校全体の取組みにおいては、体力向上のため、朝食の指導などの、小学校の栄養教諭を招いての食事指導など食育の面からも取組み、課題となる項目を改善していきたい。